

令和3年度の子宮頸がんワクチンの公費対象年齢は平成17年4月2日から平成22年4月1日生まれの女児です。当院では公費ワクチンでガーダシル(4価)、自費ワクチンでシルガード9(9価)が接種可能です

日本で使用されている子宮頸がんなどのヒトパピローマウイルス(HPV)感染症を予防するワクチンは、サーバリックス(2価)とガーダシル(4価)、シルガード9(9価)の3種類があり、いずれも女性に接種します。2013年度からサーバリックス(2価)とガーダシル(4価)は定期接種になり、2020年2月にはシルガード9(9価)が発売されました。推奨年齢は小学校6年生～高校1年生相当の女子です。小学校6年生または中学1年生になったら初回接種を受け、1～2か月の間隔をあけて2回目、初回接種の6か後に3回目を接種します。

※推奨年齢以上の女性でも感染を予防するうえでワクチンの接種は有効です。

サーバリックス(2価)は子宮頸がんの原因ウイルスの2つの型に効果があり、ガーダシル(4価)はさらに尖圭(せんけい)コンジローマの原因ウイルスの2つが追加され4つの型に効果があります。両ワクチンともに子宮頸がんの50～70%を予防し、効果は20年くらい続くとされています。

子宮頸がんの約90%に予防効果があるシルガード9(9価)は自費での接種が可能ですが、定期接種で受けられるようになるかは決まっていません(2021年3月現在)。

「接種の積極的な勧奨」の一時中止について

2013年6月に接種後の有害事象として見られた慢性疼痛などの症状と接種との因果関係や、痛みがおこる頻度、それに海外での詳しいデータについて実態調査が必要と考えた結果、厚生労働省は約半年間をめぐりに「接種の積極的な勧奨」の一時中止という決定をしました。その後、子宮頸がん予防(HPV)ワクチン接種後の慢性疼痛などの症状とワクチン接種の因果関係の調査研究がなされていますが、中止から7年以上経た2020年8月現在において、接種の積極的な勧奨の再開はなされていません。

国内外でHPVワクチンの予防効果の報告があり、早期の「接種の積極的な勧奨」の再開および高い予防効果がある9価ワクチンの定期接種化が求められます。

なお自費での接種になりますと、1回あたりの値段は
ガーダシル;17000円、シルガード9;30000円になります。

参考資料

https://www.know-vpd.jp/children/va_c_cancer.htm

子宮頸がん と HPV ワクチンに関する Q&A 一緒に考えよう HPV ワクチン、ためらう理由と勧める理由 <https://www.know-vpd.jp/faq/hpv.php>